

2-B-3. 大型鉄道コンテナ使用によるモーダルシフト

<キャノン(株)>

1. 概 要

シフトした輸送機関	トラック ⇒ 鉄道
輸送ルート	東京都 → 大阪府
主な対象貨物	事務機械
導入時期	2002 年 7 月
月間取扱貨物量	600 トン／月
荷姿	段ボール箱 パレタイズ貨物
出荷頻度	ほぼ毎日

2. 背景（実施理由、狙い、導入の経緯）

1) 実施理由

- ・ 環境問題への対応

2) 狙い

- ・ 企業の社会的責任を果たし、CO₂ 等温室効果ガスを削減するため。

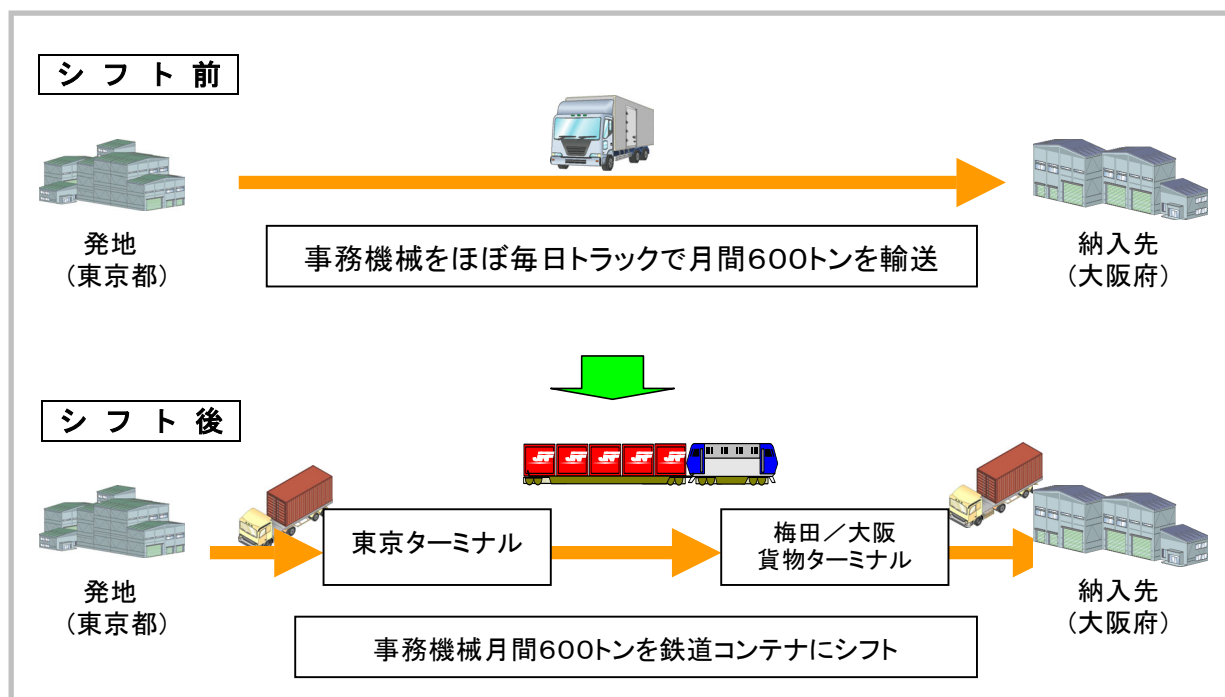
3) 導入の経緯

- ・ 企業の社会的責任を果たすため、当社では具体的なCO₂ 削減目標値があり、この目標を実現するために最も効果がある「モーダルシフト」の積極推進を試みた。
- ・ しかし、当社の貨物サイズは国際標準「海上コンテナ」に合わせているため、シフト率が35-40%で頭打ちであった。
- ・ これを解決するため、物流業者と共同で「海上コンテナ」と同等の「大型鉄道コンテナ(ビックエコライナー31)」を開発し、そのシフト率を75%まで高めることが出来た。

3. 対策効果

項 目	対 策 効 果 (実施前を100とした場合の実施後の数値: 実施後／実施前×100)
輸送コストの対策効果	100%
所要時間の対策効果	100%
トラック使用台数の対策効果	25%
トラック台キロの対策効果	30%
燃料使用量(又はCO ₂ 排出量)の対策効果	20%

4. 事業内容



5. 課題

- ・ 鉄道は日々の出荷量の波動への対応がトラックに比べやや劣っており、この点を解決する必要があると思われる。